

「あいこう・ふなこ9条の会」ニュース

ガザ全域をイスラエルが攻撃 もう逃げる所が無い

パレスチナ・ガザ地区への侵攻を続けるイスラエル軍は、イスラム組織ハマスの戦闘員を殲滅（せんめつ）させるとして、ガザ南部への攻撃を強めています。ガザ北部への攻撃で、大量の住民がガザ南部に逃げましたが、今度はその南部への空爆と地上侵攻です。

イスラエルとパレスチナの歴史的背景

第一次世界大戦までパレスチナを含むアラブ地方はオスマントルコ帝国の領土でした。第一次大戦中、イギリスはアラブ人とユダヤ人双方を味方につけるためにそれぞれに建国を約束。その裏ではフランスと、旧オスマントルコの領土の分割を密約していました。いわゆる「三枚舌外交」と言われるものです。

第二次世界大戦で国費を費やしたイギリスは、植民地を統治する力を失い、パレスチナを国連の判断にゆだねました。国連は、アラブ人国家とユダヤ人国家でパレスチナを分割する案を提示。ドイツ・ナチスによるホロ

コースト（大虐殺）で同情的な国際世論を受けていたユダヤ人は、1948年5月イスラエル建国を宣言しました。イスラエル建国でアラブ人は土地を奪われ、難民となり、中東戦争が勃発します。

その後も戦争は繰り返えされ、イスラエルは、2007年以降、ガザ地区東西約10km、南北約40kmの周りに高い塀を張り巡らし、海側には艦船を配備してパレスチナ人をそのエリアに閉じ込めています。「天井のない監獄」と言われるものです。

ヨルダン川西岸のパレスチナ人居住区には、イスラエル人が次々に入植してパレスチナ人の土地を奪い、抵抗すると逮捕し、長期間の拘束を続けています。10月7日のハマスによるイスラエル攻撃と人質の拉致は決して許される事ではありませんが、

長年抑圧されてきたパレスチナ人の苦しみは、余りあるものです。

イスラエルによる無差別攻撃中止、ただちに停戦を

今、イスラエルの無差別攻撃への抗議と、ただちに停戦を求める声が沸き起こっています。日本でも新宿や渋谷などで大きなデモが行われ、各地で抗議の集会が行われています。厚木市内でも厚木革新懇や九条の会などの市民団体によって「即時停戦」を求めるスタンディング宣言が複数回行われ「ガザへの人道支援募金」が行われています。

日本政府はアメリカの思惑に沿い、「即時停戦」を言おうとしません。日本政府は、良好だとされている中東との関係と憲法9条の立場をいかして、「即時停戦」に向けて最大限の働きをしてほしいと強く願っています。

映画上映会

はだしのゲン

11月11日、あいこう・ふなこ9条の会として久しぶりに映画上映会を行い、17人が参加しました。

この映画は、原作者の体験をもとに、原爆の惨禍や当時の時代背景や世相を表現しています。食べる物が無い、住む所がない、薬がない・・・戦争のリアルさが、子どもの目線で伝わってきます。

やがて、8月6日午前8時15分、原爆が投下され、広島市中心部は地獄と化します。爆風、劫火、放射能。生きながらえた人も塗炭の苦しみを味わい、この世の地獄が続きます。核使用をちらつかせる国々と、核兵器禁止条約に参加しない国々のトップに、絶対に観てほしい作品です。

さちこ



12月3日、本厚木駅北口広場で、ガザ攻撃直ちに停止を求める宣伝

12月12日迄、国連気候変動枠組条約締約国会議が開催されている。首相級会合の初日に、イスラエル軍がガザ地区への戦闘を再開した事から政治的な角逐の様相を呈してきた。

ヨルダンのアブダル国王の「今年のCOPでは、我々の周囲で起きている非人道的悲劇と切り離して気候変動について語り合うことは出来ない」と強調。しかし気候変動こそが、地球的規模で引き起こされている非人道的危機なのではないのか？

戦争という人間が侵す最大の非人道的悲劇に自国の利益・利害の観点から、政治的にしか対応しきれていない世界為政者に問題の解決を委ねられるはずもない。こんな想いも私の釣行の最初の躰きが、あこがれの四国から始まったからかもしれない。7月26日に、四万十川に別れを告げ、高知

今年の私の夏② 釣り人が実感した気候変動



県中部を流れる物部川に立ち寄る。例年なら鮎釣りで賑わうポイントにも釣り人は、数えるほどしかおらずしかも竿を曲げているひとは皆無。完全に諦めがつき、徳島・吉野川を通り抜けて福井県九頭竜川を目指して車を走らせる。

四国の河川の状態にショックを受けて気が重い中、たどり着いた九頭竜川の情報にまたまたショック。前日に来ていた仲間から「鮎が小さくて、育っていない。富山で待ってるよ！」一体どうなっているのか？太平洋側も日本海側も、噂では遡上する天然鮎が多いはずなのに。

まさお

地球上から核兵器をなくそう

第2回
核兵器禁止
締約国会議

核兵器禁止条約の2回目の締約国会議が11月27日から5日間の日程で、ニューヨーク国連本部で開催されました。

論」は、核不拡散や核軍縮に反するとして厳しく批判。

最終日の12月1日には、「核兵器の近代化や世界情勢の緊張の高まりで、核のリスクはいつそう悪化している。核による威嚇は、国際法に違反し、世界の平和と安全を損なう」として、核抑止政策を放棄し、核兵器禁止条約に加わることを呼びかける政治宣言を発表し、採択しました。

核兵器の非人道性を訴えました。

次の締約国会議は、2025年3月に開かれる予定です。

K・Y

「核兵器禁止条約」

2017年7月、国連加盟国193カ国中122カ国の賛成で採択され、2021年1月、50カ国が批准し90日を経た時点で条約として発効しました。

この条約は、すべての核兵器を地球上からゼロにするとともに、核の被害者の救済をめざしています。

今年9月末時点で93の国・地域がこの条約に署名し、そのうちの69の国・地域が批准しています。

残念ながら日本は、アメリカの核の傘のもとにいて、署名もしていません。

会議では、核兵器保有国であるロシアとイスラエルが、それぞれのかかわる紛争で核兵器使用の威嚇を行う中、核兵器の非人道性を再確認し、禁止条約の具体化や実践をどう進めるかが議論されました。核使用をちらつかせて威嚇する「核抑止

今回の会議には、前回と同様、広島や長崎の被爆者が出席し発言、改めて自身の体験に基づいて

